

○事業所名	運動療育と体験学習「ぴーすの杜」北高森		
○保護者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	72名	(回答者数) 61名
○従業者評価実施期間	2026年1月10日		～ 2026年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 20名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月5日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	支援計画が適切に作成され、保護者の意向にそった支援に努力している。	面談だけでなく、ひとりひとりの専用のホームページを作成し、写真入りでその日の活動を掲載しご家族と共有している。	各職員がスキルアップを図るため、外部研修や資格取得を含めて積極的に参加できるようにする。
2	児童ひとりひとりのペースにあわせた運動療育を実施している。個性を活かしながら自己肯定感につながる療育を心掛けている。 広い訓練室をもち広さを生かして発達に応じた活動と支援をおこなっている。	支援に関しての研修を定期的に行い、各事業所においてディスカッションしながら、最善最良の支援方法について検討している。	P T, O Tなど専門職の意見を積極的にとり入れ、研修の内容のレベルアップをはかる。
3		毎日、その日来所する児童の情報(支援目標、アレルギーや活動時の注意点、送迎時の注意点等)を全従業員に共有できるように情報ツールを活用している。	今後も情報ツールを積極的に活用し、適切な支援につなげられる情報を全職員が共有できるようにしていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の活動への参加が少なく、ほかの子ども達との交流が少ない	トラブル等を恐れて踏み込めない 健全児との交流に慎重な意見が保護者からでている	どのように参画していくかを、児童ひとりひとりにあつたものを考え、地域との接点を増やしていく
2	今年、外部講師も招き実施したが、参加者数が思うように伸びなかった。	事業所が増え、ご利用者が増えたことにより、開催場所などの選定に苦慮している。	コロナ禍以前におこなっていた交流会を参考にし実施する。
3	卒業した児童への支援や情報共有がすくない。	就労継続支援事業所との交流がほとんどなく、卒業した児童の情報がない。	卒業を控えた児童に対して卒業後の課題を抽出し、就労を視野にいれた支援を強化する。